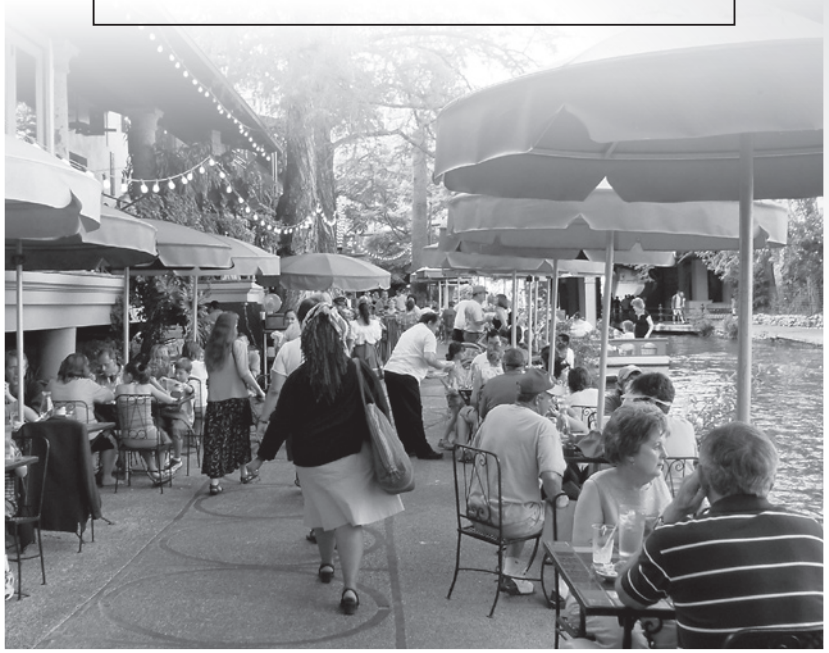
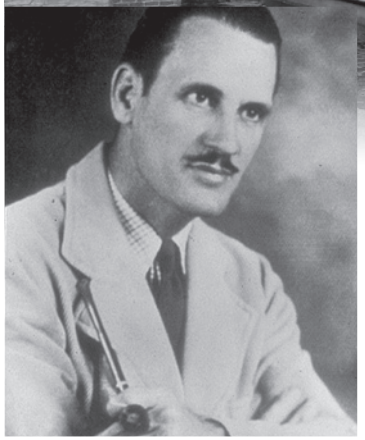
「夢の神通回廊」を目指して

サンアントニオ・リバーウォーク 川の街 誕生物語❷

リバーウォークの父、ハグマンの夢





【ロバート・H・H・ハグマン（1902～1980）】は、サンアントニオ川を愛し、生涯、川を美しくするための努力を続けた。「人々は、私のことをリバーウォークの父と言っていました」と、彼は述べています。

ハグマンは、川の美化計画を提案したことによって、非常に大きな影響をサンアントニオに残しました。

彼はサンアントニオに生まれ、テキサス大学オースティン校で学び、１９２４年から27年までニューオリンズに住んでいて、そこでフレンチクォーターがうまく保存されているのに感銘を受けました。自ら事業を始めるため、サンアントニオに戻って来たときに、絶滅寸前の川についてニュースで知るようになりました。彼は代案をつくりはじめ、１９２９年、自らの計画をまず保全協会に、ついで市長に提出しました。

彼の計画案は、保全協会と市長の興味をひき、市の行政委員たちにプレゼンテーションを行なうことになりました。タイトルは「アラゴンとロミュラの商店街」です。

「アラゴンとロミュラの商店街」のパンフレットにはハグマンの夢が描かれ、彼はこの計画を支持してくれる100人の著名人に手渡した

の大恐慌によって、資金集めの望みは断たれてしまいました。それでも、少なくとも、川を舗装する計画だけは回避されました。

ホテルオーナーであり、のちに市長となるジャック・ホワイトは、1930年代を通して、川の開発にリーダーシップを発揮しました。彼はマーベリック市長とともに、1938年10月に地方債発行を実現しました。これによって、公共事業局から、当時のお金にして4千万円相当の連邦補助金を得る資金ができました。連邦政府プログラムは、人々を仕事に復帰させるためのものでした。1938年12月13日、ハグマンはサンアントニオ美化計画に、建築家としての仕事を得ました。

大きな期待と約束をもって、長年の論争は、町の起源であるスペイン文化を象徴した公園と、商業スペースとが調和した空間を作り出す事に集約されました。

ハグマンの原案ほど大規模ではありませんが、公共事業局プロジェクトの川に沿った工事は、21ブロック余りに及び、5㎞の歩道、21の橋、そこに続く31の階段が作られ、1万1千種の木々が植えられました。

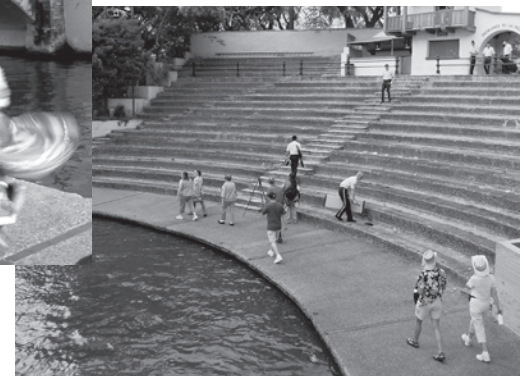
アーネソンリバー劇場の建設は、「パセオ・デル・リオ」の絵のように美しい将来像を象徴していました。

座席は土手を切り出し、石垣で固定され、芝生で覆われました。

現在、劇場は1年を通して利用されています。夏の間は1週間に7日、毎晩イベントが催され、そ

川沿いの屋外レストラン「カサ・リオ」。リバーウォークは、世界中から集まる人々を魅了する

ハグマンの夢が、都会の混雑や、世俗的な世界から隔離された、峡谷にも似たリバーウォークを建設



「アーネソンリバー劇場」で行われるスペインのショーは、旅行者の人気を集め、今ではなくてはならないアトラクションになっている

のうち5日は「フィエスタ・ノーチェ・デル・リオ」で、スパニッシュダンスと音楽が上演されます。長年にわたって、大統領候補者の演説が行なわれたり、テレビ局のホリデー特別番組の収録が行なわれたりしています。劇場賃貸料は1日3万円で、地元グループにも利用可能です。座席数は2000です。

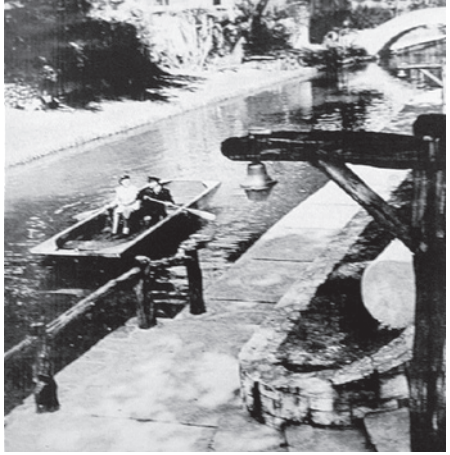
このエリアには、ハグマンの創意工夫が見られます。橋脚のため道が作れない問題を、彼は浮いて見える橋を設計することで解決しました。通りが橋の下を通っているわけです。

ハグマンは、毎日現場にきて指示を与えました。そのため、ブロックごとに、細部にまで凝った、様々な風景を作り上げることができました。

しかし、ことは順調には進みませんでした。ハグマンは1940年3月に解雇されてしまいます。それは、彼自身の負担で建築家を雇えず、ある計画書を提出できなかったためです。現在では、政治がからんでいたのではないかとみられています。プロジェクトのため、新しい建築家が雇われました。ハグマンの功績が認められたのは、20年後のことです。今日彼は〝リバーウォークの父〟と呼ばれています。

プロジェクトからはずれても、ハグマンはリバーウォークの成功を気にかけていました。

ハグマンは、リバーウォークが誕生するとすぐに、自分の事務所を河畔のビルの半円形の地階に開き、自らのポリシーを実行した。1990年、彼を記念して彼の名前がはめ込まれた



軍隊の将校がリバーウォークを楽しんでいる。しかし、今日、数千人で賑わうこの地域が、当時は立ち入り禁止となり、危険地帯として知られるようになった

ビジネスを川辺へ呼び込むため、彼自身この建物の地階に事務所をかまえました。これを記念して、彼の名前がこの建物のバルコニーにはめこまれました。1990年のことです。「ロバート・H・H・ハグマン」と書いてあります。

リバーウォーク、危機の時代

現在のリバーウォークの基礎は1940年につくられましたが、水上アトラクションは、カヌーがときどき行き来するだけでした。

1940年代から50年代にかけてリバーウォークには活気がなくなり、歩くには危険な場所だといわれていました。悪かったのは殺傷事件のあと、軍が立ち入り禁止にしたことです。ほとんど店もなく薄暗いこの地域は、その可能性が認識されていませんでした。

1946年、「カサ・リオ」メキシコ・レストランがリバーウォークに開店しました。当時は数少ない店の一つで、台所はしばしば洪水で水に浸かる地階にありました。1950年代を通して、商業界は川に興味を示しませんでした。通りから客が入り、ゴミは裏から川へと運ばれるといった具合です。

1958年、市とビジネスリーダーたちは、川の開発に向けて行動に出ることを決めました。債券が発行され、川の景観向上のため、1,800万円が注ぎ込まれました。ライトが増設され、造園工事が行なわれました。

安全対策も関心事項です。7人の公園警備隊が、24時間体制で、公園の警備にあたることになりました。

現在では、100人あまりに増員され、公園警備隊が市内すべての公園のパトロールをしています。リバーウォークでは、警備のほかに、彼らは来訪者に情報を提供する、大使の役割も果たしています。

彼らはどこにでもいますので、いつでも質問にこたえることができます。市内で最も安全な場所の一つにするため、警備は今でも重要事項です。これは中心地域の全体にもあてはまります。警察と保安官たちも徒歩と自転車でパトロールをしています。GL